



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
11月の休館日:5月・12月・19月・26月

- 11月10日(出) 19:00~
アリス=紗良・オット ピアノリサイタル
自由 3,000円 【好評発売中】
- 11月11日(日) 14:00~
県民創作ミュージカル フロタキコ
☆徳島県で開催される、第22回国民文化祭・演劇祭(ミュージカル)に、滋賀県代表として参加する作品です。出演者は県内から公募により選出された、小学校3年生から大学生までの皆さんです。フロタキコの空想の世界をお楽しみください。
自由 1,000円 【好評発売中】
- 12月2日(日) 14:30~
人形劇団京芸「潜水海賊キャプテン・グック」
会場 みずほ文化センター・ホール
シングル券 1,200円(当日1,500円)
ペア券 2,000円(当日2,500円)
【好評発売中】
- 12月12日(休) 18:30~
劇団四季 ミュージカル「エビータ」
指定 S席8,400円、A席6,300円、B席5,250円
【好評発売中】
- 12月16日(日) 14:00~
第10回記念 ひこね市民手づくり第九演奏会
指揮者 松尾葉子
自由 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】
- 12月22日(出) 13:30~
お楽しみコンサート「クリスマス」
☆クリスマスの曲がいっぱいにつまったコンサート
☆小山陽子さん(フルート)、大八木慶子さん(オーボエ)
西村光世さん(ピアノ)
【鑑賞無料】
- 1月27日(日) 14:00~
オペラ物知り講座 in ひこね
☆観客席から見るだけでは分からない、オペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織り込みながら、ハイライトで楽しむ講座です。
自由 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

マーク: 託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク: 公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
11月の休館日:5月・6火・13火・20火・26月・27火

- 11月11日(日) 10:00~12:00
フレッシュスポーツデー
ウォーキング ※雨天中止
コース: 佐和山周辺 (市民体育センター玄関前に集合)
申込方法: 前日までに電話でお申込みください。
参加費: 小学生以上 1人200円
(当日、受付でお支払いください。)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
11月に休館日はありません。

入館受付時間 8:30~17:30(11月26日(月)以降は8:30~16:30)

※築城400年祭開催期間中は、開館時間を上記のとおり延長します。
なお、11月26日(月)~同29日(休)は、展示替え作業のため、展示室の一部を閉室しています。

百景 彦根歴史絵巻

11月25日(日)まで
巻の8 「戦国から泰平の世へ」
-井伊直政から直孝の時代-

泰平の世に向けて奔走した井伊直政・直孝父子の足跡を通じて、江戸時代のいしづえを築いた400年前の社会を振り返ります。
▲井伊直孝像 (清涼寺蔵)

ほんとの社会 - 徳川譜代大名筆頭・井伊家伝来の名宝 -

譜代大名筆頭・井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。
「武器・武具」「能面・能装束」「茶道具」「湖東焼」「雅楽器」「調度」「絵画」「古文書」などの名品・逸品が登場します。

11月29日(休)~12月22日(出)
「大名の調度-暮らしを彩る-」
婚礼調度をはじめ、さまざまな場面を彩っていた各種の調度品。雅びな大名家の生活に思いをはせます。

ギャラリートーク
「大名の調度-暮らしを彩る-」
12月1日(出) 14:00~15:00
解説: 本館学芸員 小井川理(こいかわ り) ※事前申し込みは不要です。当日館内講堂にお集まりください。

歴史シンポジウム 「大老の家」はここから始まった

-井伊直孝が構想した泰平の世-

日時 11月17日(出) 13:00~16:00
場所 彦根城博物館能舞台 見所
内容 ①基調講演「天下泰平への道」
講師 山本博文さん(東京大学史料編纂所教授)
②個別発表
「井伊直孝の生涯」 野田浩子(本館学芸員)
「井伊直孝と彦根のまちづくり」
井伊岳夫(国教育委員会市史編さん室職員)
「徳川幕閣の中の井伊直孝」
三宅正浩さん(京都造形芸術大学非常勤講師)
③討論会「井伊直孝が江戸時代の社会に果たした役割」
定員 60人(先着順)
参加費 500円 ※展示をご覧になる場合は別途観覧料が必要です。
申込方法 往復はがき(一人につき1枚)の往信の裏面に、住所、氏名、電話番号を、返信の表面に、住所、氏名を書いて、申し込んでください。
申込期間 ~11月10日(出)(当日消印有効)
申込・問い合わせ先 彦根城博物館学芸史料課「歴史シンポジウム係」(〒522-0061 金亀町1-1) ☎22-6100、FAX22-6520



朱漆塗鳥籠・螺鈿牡丹唐草文籠桶

大名と調度

とまの玉手箱

博物館からのメッセージ

私たちはたくさんさんの家具に囲まれて暮らしています。新しい家具を購入するときには、部屋の間取りや、ほかの家具とのバランス、機能、デザインなど、さまざまな視点で自分の過ごす空間に合ったものを吟味します。人によってこだわりの程度に差はありますが、日々を暮らす場を居心地のよい空間にしよとすると、思えば、誰もが抱くものでしょう。

では、江戸時代の大名家で用いられた家具はどうだったのでしょうか。一国の主としての経済力を背景に、豪華絢爛な家具がしつらえられたであろうことは想像に難くありません。実際に、蒔絵や螺鈿を用いた上質の道具が調えられていました。これらは、空間を美しく調え、支度する道具という意味で「調度」と呼ばれます。

井伊家に伝来した鶯用の鳥籠(写真右)と、夜間に籠を収める箱(写真左)を見てみましょう。鳥を

愛でることは、鳴き声の美しい鶯を持ち寄って競い合わせる「鶯合わせ」という形で、平安時代から行われていました。江戸時代にも鳥はペットとして親しまれており、この籠もその風潮の中で詠えられたものでしょう。細い竹箆を組んで作られた籠や、梅の枝を象った錫細工の餌留、箱にはきらめく貝で文様を描き、籠を出し入れる障子の下半分に水辺の風景を蒔絵で表すなど、繊細な装飾が施されています。

しかし、こうした豪華な調度は、ただ空間を飾るためだけに装飾を施されていたわけではありません。床の間と違い棚のある、何畳もの畳敷きの部屋に並べられた調度は、支配者である大名家の権威を示すものでもありました。大名が、教養と美意識とを兼ね備えた支配者たるにふさわしい存在であることを、視覚的に演出してみせる舞台装置、それが大名家の調度の役割の一つでした。豪

華な鳥籠も、大名が、珍しく美しい鳥を愛玩できる力を持った存在であることを示したことでしょう。大名家に伝来する繊細で美しい調度の数々は、將軍を頂点とする社会体制の仕組みのなかの、「大名」のあるべき姿を目に見える形で描き出す、華麗なイメージ戦略の所産でもあったのです。

テーマ展「大名の調度-暮らしを彩る-」では、大名調度の代表である婚礼調度を中心に、暮らしを彩った道具や、儀礼の場で使われた道具などを紹介します。大名の暮らしに思いを馳せつつ、調度が担った「大名」イメージを感じていただけたらと思います。

(彦根城博物館学芸員 小井川理)

テーマ展「大名の調度-暮らしを彩る-」は、11月29日(休)~12月22日(出)(期間中無休)で開催します。